

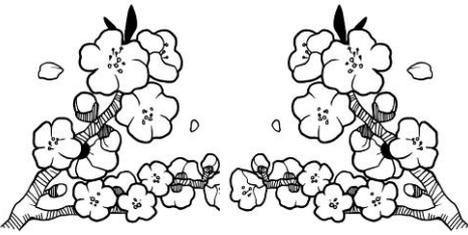


名張市立図書館だより 小学学校版 平成三十年三月 年度末号 発行：教育センター

卒業・進級おめでとう！

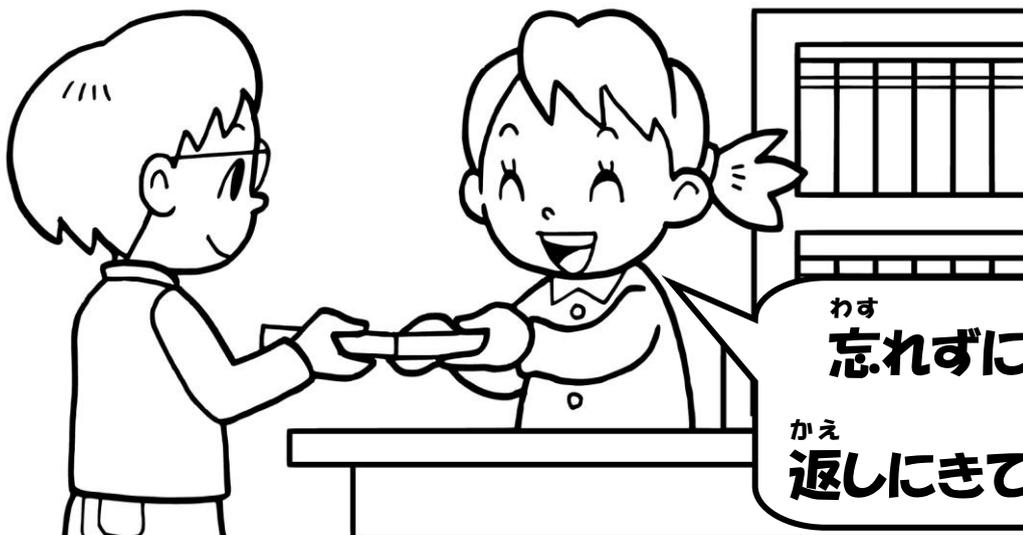
いよいよ三月です。この一年、たくさん本を読みましたか？心に残った本はありましたか？

あんまり読めなかったなあ…と思ったら、今から一冊読んでみましょう。手元にある本でもいいですし、やまなみや市立図書館に行って借りた本でもいいです。一冊手に取ってみてください。もしかしらば、夢中になれる本に出会えるかもしれませんよ。



かえ わす 返し忘れ、ありませんか？

名張市内小中学校の春休みは、本の貸出がありません。3月中に必ず返しましょう。また、長い間借りっぱなしの本はありませんか？特に6年生は卒業までに返すことを忘れないようにしましょう。何年も前の卒業生が借りていた本を持ってくることもあります。かばんの中、教室、机の中、おうちの中などを、よく確認してください。もし、自分が本を借りているかどうかからなかったら、担任の先生か図書室にいる学校司書、または図書委員会の人に聞いてみましょう。



わす 忘れずに
かえ 返しにきてね！

今回のおしらせ

- 返却しましょう
- 人気の本紹介

I ♥ Book

いちねんかん としょしつ き 一年間、図書室に来てくれてありがとう！



きみ 君たちはどう生きるか

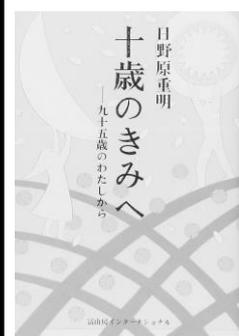


宮崎駿さんの新しい映画のタイトルが発表されたことで、にわかに注目を集めている本があります。それが『君たちはどう生きるか』（著：吉野源三郎 発行：岩波書店・マガジンハウス）です。この本は、1937年に子ども向け倫理（人として守り、行うべきこと）の本として書かれましたが、81年たった今でも色あせることのない内容です。この本にちなんで、「生きる・考える」ことの本を紹介します。春休み、少し「生きる・考える」について考えてみませんか？



『ぼくのニセモノをつくるには』 作：ヨツタ ヲツタ 発行：ポロックス新社

やりたくないことだらけのぼく。ある日、いいことを思いついた。ぼくのニセモノに全部やらせてもらおう！ さっそくおこづかいを全部使ってロボットを買った。ぼくのニセモノになってもらうには、ぼくのことを教えなきゃならない。ぼくの名前、家族、好きなこと、できることとできないこと、ぼくしか知らないこと。考えれば考えるほど不思議な、自分って何だろう？



『十歳のきみへ』 作：日野原 重明 発行：富山房インターナショナル

去年105歳で亡くなられるまで、医者を続けてこられた日野原重明さんの本です。日野原さんの本は、4年（下）の教科書の巻末にも『いのちのおはなし』が紹介されています。この本を書かれた時点で95歳と、かなり長生きをされています。そして、寿命については「けずられていくものではなく、寿命という『うつわ』に、生きた一瞬一瞬をつめこんでいくもの」と書かれています。みなさんの『うつわ』には、何が入っている、または入っていくのでしょうか？



『二分間の冒険』 作：岡田 淳 発行：偕成社

たった2分では冒険どころか、カップラーメンもできません。ところが、6年生の悟に、本当に起きたことなのです。悟が、体育館から保健室へ行く間のたった2分間。「ダレカ」と名乗るふしぎな黒猫に出会います。「ダレカ」は、悟が「見えないとげ」をぬいてくれたお礼に、願いをかなえてくれると言います。思わず「時間をくれ」と言ってしまった悟に、「ダレカ」は願いをかなえて「時間」をくれますが…。悟の最後のセリフが心にじーんときます。

編集後記



今年は、「君たちはどう生きるか」をはじめ「学校では教えてくれない大切なこと」シリーズ（旺文社）など、『哲学』、つまりいろいろなことを考えてみる、というテーマの本がよく貸し出されていました。最近は何かあればすぐに答えをネットで調べられるので、自分で考えるということが少なくなってきたような気がします。こういう『考える』ことの本がたくさん読まれている、というのはとてもうれしいことだと思えます。これからもたくさん本を読んで、たくさん考えて、たくさん学んでほしいです。

※としよだよりの感想をお聞かせください。E-mail:kyouiku-ce@city.nabari.mie.jp まで。E-mail は件名に「としよだより感想」と書いてください。